

■賀茂真淵

国学者・歌人。荷田春満が創始した国学を受け継いで確立し、本居宣長の開花へつなげた。

かものまぶち

・・・・・・・・1697=

遠江国浜松庄岡部郷で、京の賀茂神社の摂社の神職片岡師重を始祖とする賀茂神社の神職岡部家の分家の農民政信の子に生まれる。

赤穂浪士討入1702= 5歳：姉夫婦の養子となったが、まもなく実子が誕生したため実家に戻される。

両親とも和歌を詠み、その影響を受けながら育ち、

・・・・・・・・1706= 9歳：

富士宝永噴火1707=10歳：荷田春満の門人杉浦国頭について手習いをはじめ。

徳川綱吉没・1709=12歳：

絵島事件・・1714=17歳：この頃、父母より古歌を学ぶ。

国姓爺合戦・1715=18歳：

徳川吉宗将軍1716=19歳：

小石川薬園・1721=24歳：この年から、杉浦家の歌会に盛んに出席し、

・・・・・・・・1722=25歳：初めて荷田春満に接する。

火の見櫓制・1723=26歳：浜松の儒医渡辺蒙庵に漢学を学ぶ。姉の夫の兄岡部政長の婿養子となるが、

近松没・・1724=27歳：妻が死去したため、実家にもどり、

・・・・・・・・1725=28歳：浜松の脇本陣梅谷家に入婿となる。

徂徠没・・1728=31歳：上京して、春満に入門。

養家の宿屋業になじめず、

享保大飢饉・1732=35歳：実父政信が死去すると、

・・・・・・・・1733=36歳：妻子を捨て、梅谷家を出て、荷田春満のもとに走り学問の道にすすむ。

・・・・・・・・1734=37歳：春満家に就学。

昆陽蕃菘考・1735=38歳：春満の家で「百人一首」の講義をする。

悪鋳再開・1736=39歳：「旅のなぐさ」成る。春満が死去したため、

・・・・・・・・1737=40歳：荷田在満や門下の加藤枝直がいる江戸に下り、到着して間もなく百人一首評会を催す。

・・・・・・・・1738=41歳：万葉会を始める。この年、初の門人小野古道が入門。在満が著した「大嘗会便蒙」の版下を担当、

・・・・・・・・1740=43歳：「源氏物語」の講義をはじめ。「岡部日記」成る。

・・・・・・・・1741=44歳：「荷田在満家歌合」成る。「大嘗会便蒙」が朝廷の反対で絶版となり在満も処罰されるが連座を免れ、

公事方御定書1742=45歳：「万葉集遠江歌考」。日本橋に居宅を建て、*田安宗武の求めで「古今集左注論」を草し「国歌八論余言拾遺」を書き、以後、宗武の諮問に次々答えて行く。

・・・・・・・・1743=46歳：「百人一首古説」成る。

梅岩没・・1744=47歳：「国歌論臆説」「再奉答吾君書」成る。

徳川吉宗隠居1745=48歳：後の岡部日記成る。

菅原伝授十・1746=49歳：「延喜式祝詞解」成る。*居宅が類焼して失意のなか、宗武に和学御用として召し出され、古代に関心の深い宗武に仕えて古代学は急速に成長。

・・・・・・・・1749=52歳：「万葉解」成る。

徳川吉宗没・1751=54歳：この頃、「文意考」

・・・・・・・・1752=55歳：大番役奥詰として正式に宗武の家臣となると、梅谷家を継ぎ、養女に婿を迎える。「万葉新採百首解」。

薩摩藩工事・1753=56歳：この頃、「伊勢物語古意」成る。

源内物産会・1757=60歳：「古事記頭書」「冠辞考」成る。

宝暦事件・・1758=61歳：「源氏物語新釈」成る。

大式政治批判1759=62歳：「雑問答考」成る。

大岡忠光没・1760=63歳：*田安家を致仕、家督を譲って隠居し、以後、集中的に著作。「歌意考」「語意考」「大和物語直解」「万葉集考」成る。

・・・・・・・・1763=66歳：伊勢松坂で本居宣長と対面する(松坂の一夜)。

加賀千代句集1764=67歳：「古今和歌集打聴」成る。本居宣長、賀茂真淵に入門する。江戸浜町に県居を構える。

蘭銭初輸入・1765=68歳：この頃、「国意考」「書意考」「宇比麻奈備」「にひまなび」成る。

忠臣蔵大当り1766=69歳：「神遊考」「万葉集竹取翁歌解」成る。この頃、「万葉集重載歌及巻の次第」成る。

久留米藩工事1768=71歳：「祝詞考」成る。

・・・・・・・・1769=72歳：没した。